

本郷台中学校 全学年 特別活動 (1)専門委員会・中央委員会【月1回実施】 (2)生徒会役員選挙

授業のねらい

- (1) 各専門委員会で協議し、決定内容や連絡事項を中央委員会に接続して、中央委員会を効率的に運営する。
 - (2) 選挙の告示をはじめ、公正・円滑に選挙を進める。(選挙管理委員会の活動)
- 全校生徒が、立候補者や応援者の選挙運動にきちんと耳を傾け、有権者の意識をしっかりともつ。

I C T 活用の工夫

- (1) 専門委員会・中央委員会

【従来】

書記や副委員長が専門委員会での話し合いの結果をホワイトボードおよび紙媒体に記録し、中央委員会や各クラスで発表し、翌週の生徒会朝礼で全校生徒に報告した。また、紙媒体の報告書を委員会ファイルに閉じて保管した。

【I C T 活用】

- タブレット端末を貸与後、委員会の話し合いは全てデータで記録し、生徒用の共有サーバーに保存した。
- 話し合いの内容を電子黒板に投影することで、「書く」「写す」時間が短縮でき、議論する時間が多くなった。
- 共有サーバーに保存された各委員会の報告書(PDF)を中央委員会で電子黒板に表示しながら、素早く報告できた。
- 中央委員会前に、生徒会役員が全ての委員会のファイルを確認でき、スムーズに進行できた。
- 委員長分、紙媒体の報告書をコピーすることなく、いつでもどこでも見られるようになった。紙媒体でのファイル保管も不要で、ペーパーレス化に繋がり、全ての生徒が学校で共有サーバー(Tサーバーの生徒閲覧可能フォルダ)を閲覧でき、いつでもどこでも委員会の記録を確認できたり、振り返ったりすることが可能となった。
- Teamsの各委員会チームの一般チャネルに報告書を保存することで自宅でも確認ができる。専門委員会では、オンラインの生徒もTeamsのビデオ会議で、委員会の様子を見て、チャット機能で話し合いに参加することができた。

- (2) 生徒会役員選挙

【従来】

立候補者の思いや当選後の活動方針などを選挙公報に記載し、数ページにも及ぶ冊子を印刷し、全校生徒へ配布した。選挙当日、体育館で選挙公報を見ながら、立会い演説・応援演説を聞いて、各クラスで投票し、放課後に集計作業をした。

【I C T 活用】

- 感染症対策を踏まえて、体育館での立会い演説・応援演説を中止した。各クラスで、Teamsのビデオ会議を利用して、立会い演説・応援演説を視聴した。自宅学習希望者や当日欠席者もLIVE視聴ができ、効果的だった。
- 区や都の選挙で使用されている記載台で投票する雰囲気を経験させるため、今年は紙の投票だったが、今後Formsで投票させることで、オンライン投票や開票結果の即時集計が可能となり、選挙管理委員会の時間短縮にもつながった。
- 選挙公報も候補者がデータで提出し、選挙管理委員会が集約、PDFに保存した。Teamsの生徒会チームの一般チャネルに投稿することで、生徒がいつでもどこでも選挙公報を読むことができ、ペーパーレス化となり、効果的だった。

生徒の様子

- (1) 代表生徒(副委員長または書記)が話し合いの内容をタブレット端末に入力するため、他の生徒の書く時間が削減されて、その分、話し合いに参加する時間が増えた。
- (2) 事前に、生徒がタブレット端末で選挙公報や活動方針などを読むことができた。当日のビデオ会議も、真剣に耳を傾けていた。コロナ感染回避を含めたオンラインの生徒も積極的に参加していた。

成果

- (1) ペーパーレス化ができた。データでの記録により、会議や各教室でいつでもどこでも閲覧可能になった。オンラインの生徒も参加可能になった。専門委員会から中央委員会への情報等の接続がスムーズにできた。
- (2) ペーパーレス化ができた。いつでもどこでも選挙公報を読むことができた。オンラインの生徒も立会演説に参加可能になった。

課題

- どこでも閲覧可能となったので、ファイルを誤って消さないか等、安全面が懸念される。
- 投票をFormsで行うと、集計作業が簡易的になるが、記載台での投票体験ができなくなるデメリットもある。